

埼玉アートシアター通信

2016 7月-8月

SAITAMA
ARTS THEATER
PRESS
VOL.64

追悼 蜷川幸雄

穂村 弘 × 藤田貴大

Noism0『愛と精霊の家』

フィリップ・ドゥクフレ カンパニー-DCA
『CONTACT-コンタクト』

田村 響

イザベル・ファウスト&
クリスティアン・ベザイデンホウト

レ・ヴァン・フランセ

1万人のゴールド・シアター2016



CONTENTS	
03	追悼 蜷川幸雄 公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団 理事長 竹内文則
04	彩の国さいたま芸術劇場 蜷川幸雄演出作品
06	連載 蜷川幸雄、劇しき舞台 蜷川幸雄さんと彩の国シェイクスピア・シリーズ 河合祥一郎
08	追悼 蜷川幸雄 セルマ・ホルト／岩松 了／藤田貴大
10	〈PLAY〉 ワークショップ公演「ドコカ遠クノ、ソレヨリ向コウ 或いは、泡ニナル、風景」 穂村 弘 × 藤田貴大 作品の中でしか言えない言葉がある
12	〈DANCE〉Noism0「愛と精霊の家」について語る 金森 穰 Interview
14	〈DANCE〉 フィリップ・ドゥクフレが挑む新境地
16	〈MUSIC〉ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.29 田村 響 Interview ユニークな人生哲学でしなやかに挑む「29」づくしの演奏会
18	〈MUSIC〉 イザベル・ファウスト&クリスティアン・ベザイデンホウト 名手の対話が紡ぐオール・バツハ・プログラム
20	〈MUSIC〉 レ・ヴァン・フランセ 世界最強の木管アンサンブルが、彩の国に再び!
22	1万人のゴールド・シアター2016 いよいよ始動!
23	REVIEW
24	イベントカレンダー／チケットインフォメーション／彩の国シネマスタジオ
27	INFORMATION
28	〈COLUMN〉 岩松 了 連載「どっちつかずの天使」

[表紙] 蜷川幸雄 さいたまゴールド・シアター第6回公演「鴉よ、おれたちは弾丸をこめる」稽古中
埼玉アーツシアター通信インタビューにて 2013年4月19日撮影 Photo©細野晋司

編集◎川添史子、榊原律子 デザイン◎柳沼博雅

©公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団 Published on 15.July 2016 All Rights Reserved by Saitama Arts Foundation
※掲載情報は、2016年6月25日現在のものです。公演は追加および一部変更される場合がありますので、ご了承ください。

5月15日蜷川さんのお通夜が始まる直前、埼玉県知事上田清司葬儀委員長と顔を合わせた瞬間、期せずして二人同じ言葉、想いが重なってしまいました。それは、亡くなられて改めてその偉大さを知り、かけがえのない方を失った無念さでした。以下3点に象徴されます。第1は、舞台芸術の価値観が欧米中心になりがち中、伝統芸能以外で初めて日本・アジアの演劇水準の高さ、世界普遍性を認知させた唯一無二の演出家です。蜷川さんの妻さは同時に二人の自分がいること。現場で熱い熱情でダメ出しする当事者とそれを客観視して分析するもう一人がいる。それが、対称的な2つの位相を鮮やかに描いた上で絶妙なバランス感覚でハーモナイズする、異次元の時空を切り取る変幻自在な演出術につながっていったのでしょうか。第2は、80年生涯現役、演劇の現場を貫き通した生き様です。過去の高い評価を敢えて壊し、自己を疑い新たな創造をし続ける真のアーティストとしての一生。私には千日回峰行を続ける阿闍梨に見えなしたし、世界で唯一人「野球道」を追求するイチローにも被りました。後半の人生は、日本の芸術・演劇の将来を見据えての人財育成を自ら最大の使命と課し、俳優、舞台スタッフ、さいたまゴールド・シアター、さいたまネクスト・シアターに千本ノックを浴びせ続けました。そのことが必然的に興行主の眼を持つ究極のプロデューサーにも繋がりました。第3は、生涯300を超える珠玉作品と蜷川組、蜷川工房と呼ばれる舞台仲間の絆という蜷川レガシーが残されました。三分之一を超える100本が最晩年の10年間、彩の国さいたま芸術劇場大稽古場(通称NINAGAWA STUDIO)から生まれました。数カ月前、車椅子で酸素ボンベを抱え稽古場に入った瞬間「やっぱりここが自分の居場所だなあ」と言われた蜷川さんの笑顔が忘れられません。魂が宿り続けるNINAGAWA STUDIOこそが蜷川レガシーの象徴です。蜷川さん、彩の国シェイクスピア・シリーズ開始から18年、芸術監督就任から10年半、有り難うございました。私共は、蜷川レガシーをしっかりと受け継ぎ、さいたまに根付かせて埼玉ブランドとして磨き上げてゆくことを誓います。

公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団
理事長 竹内 文則

彩の国さいたま芸術劇場 蜷川幸雄演出作品

※表記のないものは大ホール公演

1995年

12/1-4 『**身毒丸**』（寺山修司 原作、岸田理生 脚本）

1997年

3/15-23 『**草迷宮**』（泉 鏡花 原作、岸田理生 脚本）

1998年

1/21-2/1 彩の国シェイクスピア・シリーズ第1弾『**ロミオとジュリエット**』

6/26-28 『**身毒丸**』（寺山修司 原作、岸田理生 脚本）

10/9-31 彩の国シェイクスピア・シリーズ第2弾『**十二夜**』小ホール

1999年

2/13-28 彩の国シェイクスピア・シリーズ第3弾『**リチャード三世**』

9/23-10/11 彩の国シェイクスピア・シリーズ第4弾『**リア王**』

2000年

4/20-23 STUDIOコクーン・プロジェクト『**三人姉妹**』（チャーホフ 作）小ホール

4/28-5/3 彩の国シェイクスピア・シリーズ第5弾『**夏の夜の夢**』

5/27-6/4 彩の国シェイクスピア・シリーズ第6弾『**テンペスト**』

10/27-11/5 『**近代能楽集 卒塔婆小町／弱法師**』（三島由紀夫 作）

2001年

3/16-25 彩の国シェイクスピア・シリーズ第8弾『**マクベス**』

7/12-14 『**近代能楽集 卒塔婆小町／弱法師**』（三島由紀夫 作）

シアターコクーン・オンレパートリー2001

音楽劇『三文オペラ』（ベルトルト・ブレヒト 作）

9/14-28 彩の国シェイクスピア・シリーズ第11弾『**ハムレット**』小ホール

2002年

1/26-2/3 『**身毒丸**』（寺山修司 原作、岸田理生 脚本）

2003年

2/19-3/16 彩の国シェイクスピア・シリーズ第12弾『**ペリクリーズ**』

2004年

1/16-2/1 彩の国シェイクスピア・シリーズ第13弾『**タイタス・アンドロニカス**』

8/6-21 彩の国シェイクスピア・シリーズ第14弾『**お気に召すまま**』

2005年

6/1-19 『**近代能楽集 卒塔婆小町／弱法師**』（三島由紀夫 作）

2006年

2/3-19 彩の国シェイクスピア・シリーズ第15弾『**間違いの喜劇**』

4/21-5/7 『**タイタス・アンドロニカス**』

7/28-8/1 さいたまゴールド・シアター 『**Pro・cess ー途上ー**』大稽古場

12/1-12/4 さいたまゴールド・シアター “Pro・cess 2”
『**鴉よ、おれたちは弾丸をこめる**』（清水邦夫 作）大稽古場

2007年

1/23-2/8 彩の国シェイクスピア・シリーズ第16弾『**コリオレイナス**』

3/16-31 彩の国シェイクスピア・シリーズ第17弾『**恋の骨折り損**』

6/22-7/1 さいたまゴールド・シアター 第1回公演
『**船上のピクニック**』（岩松了 作）小ホール

8/9-9/2 『**エレンディア**』（ガルシア・マルケス 原作、坂手洋二 脚本、マイケル・ナイマン 音楽）

10/4-21 彩の国シェイクスピア・シリーズ第18弾『**オセロー**』

2008年

1/19-2/5 彩の国シェイクスピア・シリーズ第19弾『**リア王**』

3/7-4/10 『**身毒丸 復活**』（寺山修司 原作、岸田理生 脚本）

3/27-30 さいたまゴールド・シアター “Pro・cess 3”
『**想い出の日本一萬年**』（清水邦夫 作）大稽古場

さいたまゴールド・シアター 第2回公演
『**95kgと97kgのあいだ**』（清水邦夫 作）大稽古場

8/8-24 彩の国ファミリーシアター
音楽劇『ガラスの仮面』

（美内すずえ 原作、青木豪 脚本、寺嶋民哉 音楽）

10/7-23 彩の国シェイクスピア・シリーズ第20弾『**から騒ぎ**』

2009年

1/15-2/1 彩の国シェイクスピア・シリーズ第21弾『**冬物語**』

3/4-4/19 『**ムサシ**』（井上ひさし 作）

6/18-7/1 さいたまゴールド・シアター 第3回公演
『**アンドゥ家の一夜**』（ケラリーノ・サンドロヴィッチ 作）小ホール

10/15-11/1 さいたまネクスト・シアター 第1回公演
『**真田風雲録**』（福田善之 作）インサイド・シアター（大ホール内）

2010年

3/11-4/3 彩の国シェイクスピア・シリーズ第22弾『**ヘンリー六世**』

5/15-6/10 『**ムサシ ロンドン・NYバージョン**』（井上ひさし 作）

8/11-27 彩の国ファミリーシアター
音楽劇『ガラスの仮面 ー二人のヘレンー

（美内すずえ 原作、青木豪 脚本、寺嶋民哉 音楽）

9/14-26 さいたまゴールド・シアター 第4回公演
『**聖地**』（松井周 作）小ホール

10/14-30 彩の国シェイクスピア・シリーズ第23弾『**じゃじゃ馬馴らし**』

12/16-26 さいたまネクスト・シアター 第2回公演
『**美しきものの伝説**』（宮本研 作）インサイド・シアター（大ホール内）

2011年

8/26-9/6 『**身毒丸**』（寺山修司 原作、岸田理生 脚本）銀河劇場
東日本大震災による改修工事遅延のため銀河劇場にて上演。

10/1-15 彩の国シェイクスピア・シリーズ第24弾『**アントニーとクレオパトラ**』

10/29-11/6 Bunkamura／Quaras 『**あゝ、荒野**』（寺山修司 原作）

12/6-20 さいたまゴールド・シアター 第5回公演
『**ルート99**』（岩松了 作）小ホール

2012年

2/20-3/1 さいたまネクスト・シアター 第3回公演

『**2012年・蒼白の少年少女たちによる「ハムレット」**』（シェイクスピア 作）インサイド・シアター（大ホール内）

4/2-21 彩の国シェイクスピア・シリーズ第25弾『**シンペリン**』

『**海辺のカフカ**』（村上春樹 原作、フランク・ギャラティ 脚本）

7/12-29 『**しみじみ日本・乃木大将**』（井上ひさし 作）

8/17-9/2 彩の国シェイクスピア・シリーズ第26弾『**トロイラスとクレシダ**』

11/22-25 ザ・ファクトリー2

テネシー・ウィリアムズ一幕劇集連続上演

『**火刑**』『**ロング・グッドバイ**』小ホール ほか

2013年

2/14-24 さいたまネクスト・シアター 第4回公演

『**2013年・蒼白の少年少女たちによる「オイディプス王**』（ソフォクレス 作、井上尊晶 演出補）インサイド・シアター（大ホール内）

4/13-5/2 彩の国シェイクスピア・シリーズ第27弾『**ヘンリー四世**』

さいたまゴールド・シアター 第6回公演

『**鴉よ、おれたちは弾丸をこめる**』（清水邦夫 作）大稽古場

9/5-22 彩の国シェイクスピア・シリーズ第28弾『**ヴェニス商人**』

9/27-10/20 『**ムサシ** ロンドン・NYバージョン』（井上ひさし 作）

ザ・ファクトリー4

『**ヴォルフガング・ボルヒェルトの作品からの九章 ー詩・評論・小説・戯曲よりー**』（蜷川幸雄 構成）大稽古場

2014年

2/15-27 さいたまネクスト・シアター 第5回公演

『**2014年・蒼白の少年少女たちによる「カリギュラ**』（アルベール・カミュ 作）インサイド・シアター（大ホール内）

4/29-5/15 『**わたしを離さないで**』（カズオ・イシグロ 原作、倉持裕 脚本）

6/1-7 『**海辺のカフカ**』（村上春樹 原作、フランク・ギャラティ 脚本）

8/7-24 ニナガワ×シェイクスピア レジェンド 第1弾

『**ロミオとジュリエット**』小ホール

10/7-25 彩の国シェイクスピア・シリーズ第29弾

『**ジュリアス・シーザー**』

2015年

1/22-2/15 ニナガワ×シェイクスピア レジェンド 第2弾『**ハムレット**』

彩の国シェイクスピア・シリーズ第30弾

さいたまネクスト・シアター 第6回公演

『**リチャード二世**』インサイド・シアター（大ホール内）

9/17-10/4 『**海辺のカフカ**』（村上春樹 原作、フランク・ギャラティ 脚本）

10/12-10/31 彩の国シェイクスピア・シリーズ第31弾『**ヴェローナの二紳士**』

2016年

2/18-28 さいたまネクスト・シアター×さいたまゴールド・シアター

『**リチャード二世**』（シェイクスピア 作）インサイド・シアター（大ホール内）

5/25-6/11 彩の国シェイクスピア・シリーズ第32弾『**尺には尺を**』



Photo©宮川舞子

蜷川幸雄を悼む、途切れぬ列

演出家・彩の国さいたま芸術劇場芸術監督である蜷川幸雄（80歳）が、5月12日、他界した。昨年12月中旬に入院、現場に復帰しようという強い意志のもと治療・リハビリを続けていたが、肺炎による多臓器不全により永眠。

通夜は15日午後6時より東京・青山葬儀所でしめやかに営まれ、突然の悲しみの中、多くの人が駆けつけて祭壇に手を合わせた。

翌16日は正午から同場所で告別式が行われ、平幹二郎、大竹しのぶ、吉田鋼太郎、小栗旬、藤原竜也といった、蜷川とともに舞台上で戦った俳優5人が弔辞を述べた。

祭壇には白い菊と深紅のバラと彼岸花。遺影は蜷川の娘、写真家の蜷川実花が昨年『NINAGAWA・マクベス』公演時に撮影した、真っ赤な月と写った写真。いずれも蜷川らしいものが選ばれた。

柩に入れられたのは『尺には尺を』『ビニールの城』『蟻の綿-Nina's Cotton-』といった、蜷川が手掛ける予定だった台本たち。最期まで舞台上に命をかけた演出家の情熱が見えた。

会場にはとめどなく、シガー・ロス《Vaka》、戸川純《蛹化の女》をはじめとする劇中音楽の数々が流れ、途切れることのない葬列の人々は、あの熱い舞台の数々を思い起こしただろう。

最後は、大勢の人々が拍手で見送る中、故人を乗せた霊柩車が桐ヶ谷斎場へと発って行った。

2日間とも斎場は入りきれないほどの弔問客であふれ、駆けつけた多くのファンも含め、老若男女、のべ3,000人が蜷川との最期の別れを惜しんだ。



彩の国さいたま芸術劇場内に、5月13日から6月12日まで献花台及び記帳台を設置いたしました。この間、多くの献花及び4,317名の皆さまからの記帳をいただきましたことに深く御礼申し上げます。

彩の国さいたま芸術劇場での蜷川幸雄作品を振り返る
連載の第一回は、河合祥一郎氏に
「彩の国シェイクスピア・シリーズ」の功績を振り返ってもらった。

蜷川幸雄さんと 彩の国シェイクスピア・シリーズ

文●河合祥一郎(東京大学教授)

蜷川幸雄さんが1974年に商業演劇デビューを飾った作品はシェイクスピアの『ロミオとジュリエット』であり、「世界のニナガワ」としての評価が生まれたのは『王女メディア』(1983年欧州公演)に続く『NINAGAWA マクベス』(1985年エジンバラ、1987年ロンドン公演)の成果によるところが大きい。1983年から2016年まで毎年海外公演を打つという驚くべき快挙を成し遂げたが、その海外公演総数27作のうち15作——3つの『ハムレット』と2つの『マクベス』をそれぞれ1作と数えるなら、総数24作のうち12作——はシェイクスピア作品だ。そして、そのうち9作は、1998年に始まった彩の国シェイクスピア・シリーズ(SSS)の公演である。蜷川さんの演劇活動の中でSSSが重要な位置を占めていたことが確認される。SSSでシェイクスピアを全作上演しようという蜷川さんの熱意の原点は1974年

に遡る。この年、ミハイル・バフチン著『フランソワ・ラブレーの作品と中世・ルネサンスの民衆文化』を読んで衝撃を受けたという蜷川さんは、シェイクスピアの魅力が、ブリューゲルの絵に描かれるような雑音に満ちた猥雑さにあることを確信したのだ。しかも、主人公たちの身の丈のスケールの大きさ、強烈なヴァイタリティによって織り成される激しい演劇性は、闘う演劇を標榜する蜷川さんの大きさと激しさにぴったり合致した。シリーズ第1弾は、大沢たかお・佐藤藍子主演の『ロミオとジュリエット』——蜷川シェイクスピアの原点とも言うべき作品だ。舞台上に馬が降ってくる『リチャード三世』(市村正親主演)、嵐の場で巨大な岩石が降ってくる『リア王』(サー・ナイジェル・ホーソン主演[第4弾]、平幹二朗主演[第19弾])、龍安寺の石庭に糸のように砂が

降り注ぐ『夏の夜の夢』(白石加代子・瑛川哲朗主演)、そして佐渡の能舞台に設定を置き換えた『テンペスト』(平幹二朗主演)など、初期の作品ではスペクタクル性に富んだ大掛かりな演出が人の目を奪った。21世紀に入ってその手法に変化が生じ、市村正親主演『ハムレット』(オフィーリアに篠原涼子)では、小ホールに裸電球をぶらさげ、上下に6本ほど針金を張って、人物たちの傷だらけの心象風景を映し出した。『ハムレット』ほど蜷川さんが多数手がけた作品はなく、シリーズ番外編となる

藤原竜也主演(オフィーリアに満島ひかり2015年)では、日本の長屋が舞台となった。彼の手にかかると、シェイクスピアというそれ自体強力な作品が、思いもかけぬ変化を見せる——それがSSSの最大の魅力だと言ってよいだろう。SSSが多くの賞を受賞したのも当然だ。2003年には、ロンドンでも絶賛された『ペリクリーズ』(内野聖陽主演)が第3回朝日舞台芸術賞グランプリを受賞した。このときの稽古場で、蜷川さんが「とんでもない台本だ」と怒っていたのを覚えている。荒唐無稽に展開する物語の奔放さを「とんでもない」と形容したのだが、蜷川演出のとんでもなさの方が遥かに上手だったわけだ。

2010年には『ヘンリー六世』(上川隆也・大竹しのぶ主演)で、12年には『シンペリン』(阿部寛・大竹しのぶ主演)が、いずれも読売演劇大賞の最優秀演出家賞を受賞。後者はロンドンでも好評を博した。『ヘンリー四世』でフォルスタッフを演じて芸術選奨文部科学大臣賞を受賞した吉田鋼太郎は、SSSを支えてきた立役者の一人であり、『オセロー』の主演もした。だが、最も特筆すべきは彼が主演した『タイタス・アンドロニカス』がシェイクスピアの生誕地にあるロイヤル・シェイクスピア劇場で絶賛を博したことだろう。SSSがRSCを圧倒したのである。本場に勝利したのだ。そのほかSSSのオールメールのシリー

ズも人気を博し、第14弾『お気に召すまま』(成宮寛貴、小栗旬ほか)から第31弾『ヴェローナの二紳士』(溝端淳平、三浦涼介ほか)に至るまで、蜷川さんは若い俳優たちを鼓舞し、輝かせた。あまりにも多くの光がSSSにはあり、簡潔にまとめることはできない。第30弾『リチャード二世』がハヤカワ「悲劇喜劇」賞を受賞したのが、蜷川さんにとっての最後の栄光となった。シリーズ完結まで残り5作。蜷川さんの手で完結させてもらえなかったのがあまりに残念だ。蜷川さんへの感謝とオマージュを籠めて、どうやってシリーズを完結させるのか、模索していかなければならない。



シリーズ第1弾『ロミオとジュリエット』 Photo◎高嶋ちぐさ



シリーズ第6弾『テンペスト』 Photo◎高嶋ちぐさ



シリーズ第11弾『ハムレット』 Photo◎谷古正彦



シリーズ第12弾『ペリクリーズ』 Photo◎江川誠志



シリーズ第13弾『タイタス・アンドロニカス』 Photo◎高嶋ちぐさ



シリーズ第18弾『オセロー』 Photo◎高梨光司



シリーズ第14弾『お気に召すまま』 Photo◎高嶋ちぐさ



シリーズ第22弾『ヘンリー六世』 Photo◎渡部孝弘



シリーズ第25弾『シンペリン』 Photo◎渡部孝弘



シリーズ第30弾『リチャード二世』 Photo◎宮川舞子

河合祥一郎
Shoichiro KAWAI

東京大学大学院総合文化研究科教授(表象文化論)。専門はシェイクスピア、イギリス演劇、表象文化論。2001年、『ハムレットは太っていた!』でサントリー学芸賞を受賞。主著に『謎解き「ハムレット」』、『あらずで読むシェイクスピア全作品』ほか。6月に『シェイクスピア〜人生劇場の達人』を刊行。彩の国さいたま芸術劇場シェイクスピア企画委員会 委員長。



Photo©宮川舞子

追悼 蜷川幸雄

セルマ・ホルト
プロデューサー

「おやすみなさい。優しい王子様。
天使たちの歌声を聞きながら、お眠りなさい」
『ハムレット』より 愛を込めて セルマ

30年間、私は蜷川さんとともに英国の観客を見続けてきました。彼は豊かに広がるイメージの世界を生み出し、観客はやがて字幕を必要としなくなり、言語の違いを超えて作品が人々の心に入り込みました。それは本当に特別なことです！私がまだ学生だったころ、ナショナル・ギャラリーでピカソの「ゲルニカ」を見て、瞬時に戦争とは何かを理解した……という忘れがたい経験をしましたが、蜷川さんにはあの絵と全く同じことができたのだと思います。蜷川さんのつくり出す舞台は、観客を行ったことのない世界に連れ去り、忘れがたい経験を与えてくれました。今は同時代を生きた偉大なアーティストの作品が、その死後も色褪せることがないことを友たちと確認しあい、少しばかりの慰めを得ています。

30年にわたって蜷川氏の英国公演を支えたプロデューサー、セルマ・ホルトさん。さいたまゴールド・シアターに二本の戯曲を書き下ろした岩松了さん。蜷川氏の半生を描いた『蜷の綿-Nina's Cotton-』を書き下ろした藤田貴大さん。蜷川氏との交流があった演劇人の皆様から、追悼の言葉をいただきました。

岩松 了
劇作家・演出家

蜷川さん！
覚悟はしていたけれど訃報は突然でした。あなたが近々やるはずだった舞台のことを思いました。皆が皆、あなたの死を前に立ち尽くした。その様はあなたをなくした嘆きのように見えたけれど今は、偉大なあなたと知り合えたことを喜んでいたのかもしれないと思うに至りました。

私の場合、自分が歩んできた演劇の道とあなたのそれがいかにもかけ離れていたから、というよりあなたとは真逆のことをやろうとした私だったから、年月を経るに従って、あなたの演劇に深く感じるものがあったのだと思う。言い方を変えれば、私はあなたの演劇によって、そもそも人は演劇を求めるものなんだということを知ったのです。私はたとえば、演劇を実人生を写す冷やかな鏡のように(或いは今でも)考えていたし「演劇など、好きではない」と言い続けていた。そんな私に「だから？」とあなたは言い続けてくれたのだ。まだまだいろんなことを話したかったけれど、どうしてだろう、あなたのそばにいるとき、そんな本心とは逆に、どうでもいいような会話しか出来なかった。もしその原因が“照れ”というものならば、その功罪について今は真剣に考えなければならない。

蜷川さん！ ありがとうございます！
今はその言葉だけです。

藤田貴大
マームとジプシー主宰

蜷川さんについて、まだあまり言葉としてまとめることができなくて、ここにもなにを書くべきか、正直わからないでいる。ただ云えるのは、蜷川さんに関わったすべてのひとはこの先ずっと、時間をかけて、彼が葛藤したこと、彼が生んだ作品のことをかんがえていくのだろうと、おもう。彼との時間がそれぞれあったとおもうのだ。俳優のみなさんも、スタッフのみなさんも、彼に関わったすべてのひとはそれぞれ、彼との時間があった。そのそれぞれの時間をこれからゆっくり思い出して、そして引き継いだことがこれからまたあたらしい作品を生む。

ぼくが彩の国さいたま芸術劇場に初めて訪れたとき、彼は劇場のことを自慢げに話した。そして、劇場で働くひとたちのことも誇らしげに話した。ぼくはあのときの彼の表情を忘れないし、彼がつくったものは作品だけじゃない。場所もひとも、彼はつくってきた。彼の仕事は、ほんとうに純度が高い。この純度を引き継いで、またあたらしい純度を生んでいかなくてはいけない。

告別式に行ったときに、そこでかんじたことがあった。蜷川さんはたしかに「蜷川幸雄」だったけれど、「おとうさん」だったし、「おじいちゃん」だった。最後までそばにいて、現実としての彼を支えてきたひとたちがいた。計り知れない気持ちたちがそこにあって、それを深くかんじた。感謝の言葉しか思い浮かばなかった。

ありがとうございました。

穂村 弘

Hiroshi Homura

1962年北海道札幌市生まれ。歌人。1990年に歌集「シンジケート」でデビュー。短歌のほか、評論、エッセイ、絵本、詩などを手がける。著書に「ラインマーカース」「によっ記」「求愛瞳孔反射」「君がいない夜のごはん」「ぼくの短歌ノート」など。第19回伊藤整文学賞、第44回短歌研究賞、第4回ようちえん絵本大賞特別賞ほか。「マームと誰かさん」シリーズ、「書を捨てよ町へ出よう」など藤田作品に参加している。近刊に「鳥肌が」(PHP研究所刊)。

藤田 貴大

Takahiro Fujita

1985年北海道伊達市生まれ。マームとジブシー主宰。演劇作家。桜美林大学文学部総合文化学科にて演劇を専攻。2007年にマームとジブシーを旗揚げ。象徴するシーンのリフレインを別の角度から見せる映画的手法が特徴。「かえりの合図、まっけた食卓、そこ、きつと、しおふる世界。」で第56回岸田國士戯曲賞、「cocoon」(2015年再演)で第23回読売演劇大賞優秀演出家賞を受賞。



「二週間の休暇」新装版
フジモトマサル (講談社刊)

記憶のない「日菓子」の不思議な日常を描いた一冊。穂村弘とフジモトは、「によっ記」シリーズで長年コンビを組んでいた。

発売日 一般・メンバーズ 7.30(土)

ワークショップ公演

『ドコカ遠クノ、ソレヨリ向コウ
或いは、泡ニナル、風景』8.25(木)・26(金)開演19:30、
27(土)開演14:00/18:00、28(日)14:00

彩の国さいたま芸術劇場 NINAGAWA STUDIO(大稽古場)

【作・演出】藤田貴大
【出演】新井秀幸、石川 優、植浦菜保子、大田恵里圭、太田順子、小川沙希、奥泉文子、花衣、北澤雅章、猿渡 遥、清水君子、銀ゲンタ、瀬都あく、竹田邦彦、田村律子、辻本達也、中尾僚太、中村未来、橋口勇輝、半田美樹、眞野里紗、光子、宮田道代、安川まり、山林真紀
チケット(税込) 全席自由(整理番号付) 一般・メンバーズ1,500円

発売日 一般・メンバーズ 7.30(土)

マームとジブシー

『クラゲノココロ』『モノパノラマ』『ヒダリメノヒダ』

9.16(金)・17(土)開演19:30、

18(日)開演14:00/18:00、19(月・祝)開演14:00

彩の国さいたま芸術劇場 NINAGAWA STUDIO(大稽古場)

【作・演出】藤田貴大
【出演】石井亮介、尾野島慎太郎、川崎ゆり子、中島広隆、成田亜佑美、波佐谷 聡、吉田聡子/山本達久(ドラマー)
チケット(税込) 全席自由(整理番号付) 一般・メンバーズ3,500円

※開場は開演の20分前です。
※開場時間よりチケットに記載されている整理番号順のご入場となります。
※開場時間を過ぎますと整理番号は無効となります。
※仮設客席での上演のため、椅子の形状が通常と異なります。

ワークショップ公演 『ドコカ遠クノ、ソレヨリ向コウ 或いは、泡ニナル、風景』

歌人

穂村 弘

マームとジブシー主宰

藤田 貴大

作品の中でしか言えない言葉がある

藤田貴大作品に出演経験がある歌人・穂村弘をゲストに招き、8月の最新作について語ってもらった。同じモノを作る同士を“葬ること”にも話がおよび、そこには敬意ある“距離感”が浮かび上がった。

取材・文 ● 川添史子 Photo ● 細野晋司

藤田 8月に上演する作品は、23歳の時にJR福知山線の脱線事故をモチーフに書いた作品なんです。一瞬で百人以上の人が亡くなったと言うけれど、一人ひとりが誰かの大事な存在として生きていたんだ……ということを書いてきた作品。去年上演を決めたのに、オーディション中も、どうしても蛭川さんが亡くなってしまった

ことと結びついてしまっ。演劇は「現在やること」から逃れられないじゃないですか。そうなる観る人は、今思う喪失につながると思うし。

穂村 喪失というテーマは、藤田さんの中で通底してありますね。

藤田 はい。蛭川さんが亡くなって以来、追悼文のオファーがものすごくあったんで

すが、何を書くのかすごく悩んじゃって、違和感があったんですね。それで先日、フジモトマサルさんの『二週間の休暇』を読んで穂村さんにお会いしたくなって……。巻末に、解説を書いていらっやいますよね。

穂村 昨年急逝されたフジモトさんの旧作で、ブックデザイナーの名久井直子さんが

再び装幀を手掛けた新装版ですね。仲間たちが集まって、一步でも喪失感から進もうみたいな仕事でした。あの時も追悼文はうまく書けないけれど、この作品がいかにか素晴らしいかの解説は書けたんです。

藤田 あれを読んで納得がいったんです。僕は蛭川さんが亡くなった現実に対する言葉ではなく、作品の中でしか言えない言葉があるんだと思った。穂村さんたちが取った距離が美しいと思ったし、僕が20代から友人「K」の死を扱ったり、さまざまな喪失感を描くのは、現実としての言葉としては何もかける言葉はないと思っているからだと思う。

穂村 結局は作品だ、という気持ちは分かるなあ。でも戦後を代表する歌人・塚本邦雄が84歳で亡くなった時、盟友だった岡井隆は「全部の新聞に違った言い方、内容で僕は追悼文を書いたよ」と言っていて、それはそれですごく納得した(笑)。つまり「書けない」も「どう書けないから、依頼された追悼文のすべてに違う褒め方で書いた」も真実で、正解はないんでしょうね。

新しい人たちとの出会い

穂村 さっき常に演劇は現在だって言ったけど、今度の作品は、旧作そのままの再演

ではないの？

藤田 多くの場面は残しますが、ほぼ新作みたいに見えるんじゃないかな。出演者が25人もいるんですよ。おばあちゃんを多めに選びました。

穂村 おばあちゃんがオーディションにいらしたわけ？

藤田 はい。さいたまゴールド・シアターの人も多くいましたけれど。



穂村 マームの特徴であるリフレインがごく自然にできるかもね。

藤田 オーディションでは、マームよりできるだけ広い許容範囲で皆さんを見ようとしていたんですよ。それが自分でも新鮮で面白かったです。マームとジブシーでは絶対に妥協も許容もしないから。それが「この人は今回の作品でアリなのかもしれない」とか、違う視野が生まれてくる感覚がやっぱり面白くて。

穂村 じゃあ、いつもの藤田さんと絶対的にNGな人だとしても参加者の「でも使って」オーラみたいなのに……。

藤田 圧倒されたこともありました(笑)。今回初めて、マームの俳優が一人も入らないんですが、20代の時には絶対になかった発想ですね。30代になって、多くの人と出会って、違う要素を自分の中に入れておきたいという気持ちが高まっています。今のままじゃだめなんだっていう危機感なのかもしれないけれど。

穂村 クリエイターとしてどん欲ですよ。今の環境を拡大していけばいいっていう発想だって、人によってはあり得るでしょう。でも勝算はあるわけ？

藤田 ありますね。

穂村 その自信がいつも謎だよな(笑)。

藤田 穂村さんともまたやりたいです。

穂村 (疑いの目)

藤田 ホントですよ！(笑)

穂村 藤田君はいつも暗い目をしてそういったことを語るからなあ。だから僕、捨てられた時に傷つかないように藤田くんを愛さないようにしてるの(笑)。まあ、この距離感が、クリエイターとしての愛でありリスペクトなんです。

Noism0『愛と精霊の家』について語る 金森 穰 Interview

2015年9月、新潟で一夜限り上演され反響をよんだNoism0『愛と精霊の家』が今夏、彩の国さいたま芸術劇場に登場する。りゅーとびあ 新潟市民芸術文化会館の劇場専属舞踊団として設立され、国内外で活発に公演活動を行うNoismの芸術監督・金森穰が挑む新プロジェクトの第1弾だ。金森にNoism0結成の経緯や同作について聞いた。

取材●高橋森彦(舞踊評論家)



新たに立ち上げた プロジェクト・カンパニー Noism0

2004年創立のNoismはプロフェッショナルカンパニー Noism1と研修生カンパニー Noism2によって構成されている。2015年、そこにNoism0が発足した。舞踊はもとより他ジャンルも含めた経験を積んだ芸術家が集うプロジェクト・カンパニーである。

「Noism立ち上げ当初から、ゆくゆくは年齢と経験を重ねた舞踊家による集団を作りたいと考えていました。20歳そこそこの頃にネザーランド・ダンス・シアターⅢの円熟した舞踊家たちの舞台を見ることによって、舞踊家として生きることの可能性、その豊かさに触れ、とても貴重な経験をしました」

金森 穰 Jo KANAMORI

演出振付家、舞踊家。りゅーとびあ 新潟市民芸術文化会館 舞踊部門芸術監督 / Noism芸術監督。17歳で単身渡欧、モーリス・ベジャール等に師事。ネザーランド・ダンス・シアターⅡ在籍中に20歳で演出振付家デビュー。10年間欧州の舞踊団で舞踊家 / 演出振付家として活躍したのち帰国。2004年4月、りゅーとびあ新潟市民芸術文化会館舞踊部門芸術監督に就任し、日本初の劇場専属舞踊団Noismを立ち上げる。近年ではサイトウ・キネン・フェスティバル松本での小澤征爾指揮によるオペラの演出振付を行う等、幅広く活動している。2014年6月より新潟市文化創造アドバイザーに就任。平成19年度芸術選奨文部科学大臣賞、平成20年度新潟日報文化賞ほか受賞歴多数。

Noism0

ノイズムゼロ

「水と土の芸術祭2015」でパフォーマンスディレクターをつとめたNoismの芸術監督金森穰が立ち上げたプロジェクト。一夜限りの公演として『愛と精霊の家』を上演し、好評を博した。舞踊に限らず、演劇、音楽、美術等それぞれのジャンルで専門的経験を積み、卓越した活動を展開している芸術家が集うプロジェクトとして不定期で公演を行う。

Noism

演出振付家・舞踊家の金森穰がりゅーとびあ 新潟市民芸術文化会館の舞踊部門芸術監督に就任したことにより2004年に設立した日本初の劇場専属舞踊団。プロフェッショナルカンパニー Noism1と研修生カンパニー Noism2で構成され、新潟から世界を見据えたカンパニー活動と、舞踊家たちの圧倒的な身体によって生み出される作品は、国内外で高い評価を得ている。www.noism.jp

チケット発売中

Noism0

『愛と精霊の家』

8.20(土)18:00、21(日)15:00

彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【演出振付】金森 穰

【出演】井関佐和子、山田勇気、小尻健太、奥野晃士、金森 穰

チケット(税込) 一般 6,000円 U-25* 5,000円

【主催】BeSeTo演劇祭新潟開催実行委員会

【共催】公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団

*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。



Photo©Kishin Shinoyama

『愛と精霊の家』は金森と公私のパートナー井関佐和子 (Noism副芸術監督) が2009年に結成した unit-Cyan の『シアンの家』(2011年初演) に基づく。「unit-Cyanの活動理念が公私混同という、通常は忌避される行為に虚実混同で向き合い、公私ともにパートナーである我々にしか表現し得ないものを創作発表することでした。第1作目で“告白”、第2作目で“家”をテーマに掲げたのは必然でした。『シアンの家』は東日本大震災の影響が非常に大きい。失われた多くの命や津波によって抗いようもなく押し流されていく家の映像は、“物理的な家”に象徴される日常のあっけない崩壊と共に“精神の家”、すなわち愛と死の荒野に屹立する我々人間の孤独へと私を誘いました」

誰しみが持つ孤独を

金森作品の底に流れる「愛と死」というテーマは不変だが新たにクリエイションを行う際に構想を膨らませた。「もっと普遍的で共有可能な表現へと飛躍させるために、20年前のデビュー作(『Under the marron tree』)と老人役(俳優)を組み込みました。過去、現在、未来という時間的飛躍を与えることで、人類普遍の精神に訴えることを願ったのです」

舞台空間には「愛であり血である赤」と「欲望であり永遠である金」が印象的に用

いられる。そこで人形・舞踊家・妻・母になれぬ女を演じる舞踊家=井関を中心に、俳優の奥野晃士と山田勇気、小尻健太そして金森という3人の男性舞踊家が重層的に絡んでいく。

「人は誰しも孤独であると同時に多義的です。それは存在する時代、環境、関わる他者、要するに対象によって変わるといことです。その対象を、時間を超越した他者、すなわち想念としての他者(死者)にすることで、一人の女性の多義性をより浮き彫りにできると考えました。それは孤独であることを、より顕在化させることにもつながります」

井関の踊りからは圧倒的なエネルギーと高い精神性が伝わってくる。

「今、佐和子は精神と思考、身体と意識が非常に高いところで拮抗しています。私にとって、その人の内に内在する複雑で深遠な精神を舞台上に顕在化させたいと思わせる舞踊家がいることは、とてもうれしいことです。それはほかでもない私自身が自らの内に深く降りていくことをも可能にするからです」

より充実した再演へ向けて――

作品全体から円環的な時間の流れを感じさせる。自作の中での位置づけや初演後に思ったこととは？

「20年の歳月を経てデビュー作の在るべ

き場所が見つかりました。これが旅の終着点なのか、あるいは20年後に『愛と精霊の家』の在るべき場所が見つかるのか、それは誰にもわかりません。ただ一つ言えることは、私はこれからも愛と死をめぐる孤独な旅を続けるだろうということです」

ラヴェルの『亡き王女のためのパヴァーヌ』やマーラーの『交響曲第五番第4楽章(アダージェット)』といった音楽とダンスが分かち難く結び付き、ずしりと胸に響く。

「使用楽曲はどれもロマン主義のものであり、多くの振付家によって用いられた非常に有名なものばかりです。私は誰も見たことがないものを生み出したのではなく、誰もが知っているものを用いて、我々が忘れていたものを呼び起こしたいだけです。創造が破壊と不可分であった20世紀を継承するのではなく、回帰ではなく参照するために19世紀に目を向けること。そして歴史上人類が創造してきたアーティファクトの欠片を拾い集めて再構築すること。それが21世紀の課題だと考えています」

再演に期する思いをこう語った。「初演時よりも作品の内実に触れ、それがより演者の身体に染み込むように稽古を重ねていこうと思っています。それが観に来てくださる観客の方々に対してできる唯一のことですから」

『Paramour (パラムアー)』を観た。フィリップ・ドゥクフレの、ニューヨーク・ブロードウェイ・ミュージカル演出家としてのデビュー作品だ。…いや“現代サーカス”の元祖かつ大御所、モンリオールを本拠地にするシルク・ドゥ・ソレイユの初のNYブロードウェイ・ミュージカル進出に、「ドゥクフレが演出家として参画した」と表した方が正確かもしれない。

日本ではもっぱら「振付家／ダンサー」という肩書きや、コンテンポラリー・ダンス・カンパニー「DCA」の創設者として知られるドゥクフレだが、彼が若いころにフランスでサーカス学校に通っていたことを知る人や、彼の一連の作品に親しんできた

人には、ドゥクフレとシルク・ドゥ・ソレイユとのコラボレーションはいかにも納得できる結びつきだ。

実際、彼らの共同作業は初めてではない。2011年にシルク・ドゥ・ソレイユがロサンゼルスのコダック・シアターで上演した『Iris (イリス)』という作品でも、ドゥクフレは演出家を務めている。『Iris』も『Paramour』も「ハリウッドの黄金時代」という共通したテーマに基づいて作られている。そればかりか『Paramour』の中のいくつかのメジャーなシーンは『Iris』からそのままの流用だったりもしているから、今回のプロジェクトは2011年の副産物と言ってよさそうだ。

大きく違うのは『Iris』が従来のシルク・ドゥ・ソレイユらしい現代サーカスのレビューであるのに対し、『Paramour』は筋書きのある典型的なブロードウェイ・ミュージカル仕立てというところ。「巨匠映画監督が無名の女優をスターにひっぱりあげたあげくプロポーズ。だが女は無名時代から苦勞を共にした男性ソング・ライターと逃避行。恋は地位や名声より強し!」。実にアメリカンに直球的な、三角関係の物語だ。セリフがある。恋に焦がれるソロの熱唱がある。愛のデュエットがある。音楽も耳に親しいポップスだ。ぜんぜんヌーヴォー・シルクらしくない。妖しさと洒脱さの絶妙なブレンドや独自の音楽



シルク・ドゥ・ソレイユ『Paramour』©2016, Cirque du Soleil Theatrical Photo©Joan Marcus

フィリップ・ドゥクフレが挑む新境地

“ドゥクフレ流ミュージカル”と、ヨーロッパで大きな反響を呼んだ新作『CONTACT-コンタクト』を携え、この秋、日本に上陸するフィリップ・ドゥクフレ。ところで今、ミュージカルの本場ニューヨークのブロードウェイでは彼が手がけたシルク・ドゥ・ソレイユの最新作『Paramour』が話題となっている。現地在住の塩谷陽子氏の観劇レポートをお届けしながら、30年を経ても新境地を広げ続け、人々を虜にして離さないドゥクフレ作品の真の魅力に迫る。ドゥクフレの新たな挑戦から、来日公演への期待もますます高まるに違いない。

文●塩谷陽子 ジャパン・ソサエティー (New York) 芸術監督



シルク・ドゥ・ソレイユ『Paramour』©2016, Cirque du Soleil Theatrical Photo©Joan Marcus

使いを得意とするドゥクフレには、演出家としてやりにくい仕事だったのではないかと、つい邪推もしたくなる。何にせよ『Paramour』は、カネのうなる街ニューヨーク、ハリウッドよりもラスベガスよりもハードルの高いエンターテインメントの中心地ニューヨークにおいて、いまだ大きなヒットを飛ばすことができずに忸怩たる思いを抱えてきた世界のシルク・ドゥ・ソレイユが、自らの作風を曲げてまで「一発当てるぞ!」と意気込んで仕込んだプロジェクトなのである。

そうはいつでも餅は餅屋、アクロバットはあらゆるシーンで盛りだくさんで、技はもちろん超一流だ。シーソーの両端でパフォーマーが交互に天井近くまで跳ね上がり、ムーンソルトをしながら舞い落ちては飛び飛んでは舞い落ちる軽業。いくつもの輪っかを自由自在に扱うジャグラーの技巧。サーカスとしては古典的なイデオムであっても、シルク・ドゥ・ソレイユのパフォーマーたちの卓越した身体表現にはやはり胸が踊る。

一方で、ドゥクフレらしい振り付けの

シーンには新しいサーカスたる妙味がたっぷりあるのがうれしい。例えば筋肉隆々の美しい双子男性デュオによるエアリアル・ダンス。天女ならぬ天女の妖艶な舞い姿は、ベタなアメリカン・ミュージカルの世界から一時逃避できるオアシスだ。エンディングに近いトランポリンを使っているシーンにも興味が募る。都会の屋上を模したセットの中、ビルからビルへと飛び移る逃走者と追撃者との空中交差は、スパイ・アニメの登場人物たちが現実世界に紛れ込んだようだ。

ドゥクフレの演出のもうひとつの大きな見どころは、何と言っても独特の映像使いであろう。さまざまに趣向を凝らしたビデオ使いが舞台で一般的になってきている昨今、観客もちょっとやそっとのことでは驚かないが、『Paramour』の中には舌を巻かずにいられないクリエイティブなビデオ・プロジェクトが数多くある。筆者の心にもっとも残ったのは、舞台転換の間の幕前に立つ役者の手のひらの上で、影絵のような白黒の映像が手品のごとくくると形を変える不思議なシーン。小さな隙間にも入魂のスパイスを効かせるドゥクフレ演出の真骨頂であろう。

「空間演出の魔術師」と称されるドゥクフレが、長年構想し、夢見ていたのが〈ミュージカル〉。今回レポートをお届けした『Paramour』同様、ドゥクフレ流ミュージカル『CONTACT-コンタクト』は、ピナ・バウシュの『コンタクト・ホーフ』へのオマージュであると同時に、彼が親しんだフレッド・アステアやジーン・ケリーが歌い、踊るハリウッドのミュージカル映画への敬意を表した作品でもあると自身が語っている(ちなみにブライアン・デ・パルマの『ファントム・オブ・パラダイス』も好きだとか)。

そして、彼は自身のカンパニーでミュージカルを創作することを思い描いていた。DCAのダンサーや俳優たちは、ほとんどが歌や楽器の演奏もこなす。『CONTACT-コンタクト』で、見事な歌声や演奏を披露する多才なパフォーマーたちが、このメンバーならミュージカルを創るとドゥクフレを確信させたのだろう。

チケット発売中

フィリップ・ドゥクフレ カンパニーDCA
『CONTACT-コンタクト』

10.28(金)開演19:00、29(土)・30(日)開演15:00

彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【演出・振付】フィリップ・ドゥクフレ 【出演】カンパニーDCA

チケット(税込) 一般 S席6,500円 A席4,000円

U-25* S席3,500円 A席2,000円

メンバーズ S席6,000円 A席3,600円

*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。
※A席(サイドバルコニー・2階席の一部)は舞台の一部が見切れます。予めご了承ください。
※演出の都合により、開演時間に遅れますとお席へのご案内ができない場合がございます。
※愛知、新潟公演あり。



Photo©Laurent Philippe

ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.29

田村 響

Interview

ユニークな人生哲学で
しなやかに挑む
「29」づくしの演奏会

20歳でロン・ティボー国際コンクールで優勝、その後も研鑽を積み、現在は演奏活動はもちろん、大学で後進の指導にもあたる、29歳のピアニスト田村響。ベートーヴェンとショパンという正統派ながら、選曲の半数は彼にとって初披露という「ピアノ・エトワール・シリーズ」らしい挑戦的なプログラムで、彩の国さいたま芸術劇場に初登場！

取材・文 ● 飯田有抄 (音楽ライター) Photo ● ヒダキトモコ

「全体を網羅したい」
努力と縁に導かれる音楽活動

昨今の優れた若手ピアニストたちには、高校卒業と同時にヨーロッパの音楽院へと留学し、若くして権威あるコンクールを征して国際舞台に躍り出る者がいる。田村響はそんなキャリアを持つ逸材のひとりだ。

2007年に20歳でロン・ティボー国際コンクールで優勝した後も、2013年まではザルツブルクで研鑽を積んだ。帰国後は大阪音楽大学で修士号を取得し、現在は京都市立芸術大学の専任講師として指導にも当たる。もちろん、各地でのリサイタルや、国内外のオーケストラとの共演や室内楽のステージに立つコンサート・ピアニストと

しての活動を行いながら、30歳を目前にして、多忙極まる日々を送っているという。「ザルツブルクからの帰国後、日本の学位を取得できたことも、京都の大学で専任講師となったことも、すべてご縁をいただいて実現できたことです。大阪に拠点を置いたことは、人間関係が広がって開放的になれたので、正解だったと思います。演奏活動と大学の仕事を両立させると、ほとんど休みが取れませんし、キャリアとしてまだ早いという見方もありましたが、後進の指導を10年後にスタートさせるか、それとも今すぐにスタートさせるかを考えると、絶対に今始めたほうがいいと直感しました。

漠然とした目標ですが、『全体を網羅したい』という意欲があります。ソリストとしての演奏活動だけに特化して、そこは100点でもそれ以外の活動はゼロとするよりも、室内楽も協奏曲も大学での指導もそれぞれに10点、20点と積み重ねていきながら、40代、50代になったときに全体的にどの活動をとっても80～90点に達していきたい、という気持ちがあります」

経験を積み、さまざまに心を動かすことが、最終的には豊かな音楽的表現につながるという。

「人は変化し続けていいと思います。ロン・ティボー国際コンクールで優勝したあと、本番の数が急激に増え、『優勝者』というプレッシャーも感じて、萎縮してしまった時代がありました。そんな経験があったので強くなろうとしてきました。今は自分を開放できていると感じます。3年前から髪の色を明るく変えて、より調子がよくなりましたね。毎月2回、美容室で欠かさずダブ

ル・ブリーチしています(笑)。

僕は学生たちに5つの質問をしています。人生とは何か。人生の目的は何か。その目的のために何をしているか。なぜピアノをやっているか。余命があと大学卒業までの年数だとしたらどういう行動をとるか。正しい答えなんてありません。自分で考えて、答えをどんどん変化させながら、心を動かしてほしい。その人自身の心が動かないと、音楽は動きませんから」

音楽作りは、感情、色、
エネルギーを大切にしたい

9月11日の「ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.29」では、ベートーヴェンの2つのソナタ、ショパンの《スケルツォ》全4曲を取り上げる。

「ベートーヴェンはとても好きな作曲家で、これまでに協奏曲やピアノ三重奏曲にも取り組んできました。今回はソナタ第8番《悲愴》、第21番『ヴァルトシュタイン』をお届けします。この2曲はハ短調とハ長調という同主調で繋がりがよく、また短調から長調へと転換していくことで、悲劇を越えて勇敢に立ち向かうドラマとして並べました。『ヴァルトシュタイン』で晴れやかな気分を味わっていただきたいですね。

ショパンの《スケルツォ》のうち、実は第3番と第4番は初めて演奏する作品です。このリサイタルを機会として、全曲をステージで完結させたいですね。それぞれの物語に忠実に表現したいと思います」

音楽作りに関しては、ロジカルに処理するというよりも「感情、色、エネルギーを大切にしたい」と語る。

「作品のもつ歴史的な側面も、弾くことに

よって感覚的に捉えられる部分があります。弾いたときの直感を、お客様と共有できたら嬉しいですね」

生活すべてが音楽の肥やし

29歳の田村が、29回目の「エトワール」シリーズに登場するわけだが、「ちなみに肉(ニク)も好きですよ!」と笑う。「肉を食べることはスタミナづくりにも欠かせませんが、美味しい料理や遊びや趣味など、生活すべてが音楽の肥やしになると思っています」



学生時代からロックやスカ・バンドなど、クラシック以外の音楽もよく聴いてきた田村だが、最近では「石原裕次郎さんのCDを買いました」と明かす。

「《わが人生に悔いなし》や《夜霧よ今夜も有難う》など、音源をiPadに入れて聴き込んでいますが、裕次郎さんの歌には本当に癒やされます」

迷い、挑み、開放し、しなやかであろうとする田村のピアニズムには、意外なエッセンスも隠されているかもしれない。変化を恐れぬ29歳は、9月のリサイタルでどんな姿を見せてくれるのだろうか。

田村 響 ピアノ
Hibiki Tamura

愛知県出身。2007年10月、ロン・ティボー国際コンクールにて覇冠20歳で第1位に輝き一躍世界に注目され、以来国際的な演奏活動を展開している。09年2月には、ビュッコフ指揮ケルン放送交響楽団にソリストとして定期演奏会デビューと日本ツアーを行った。国内のオーケストラからもソリストとして招かれ、高い評価を受けている。03年アリオン賞、06年出光音楽賞、08年文化庁長官表彰・国際芸術部門、09年ホテルオーケストラ音楽賞、16年文化庁芸術祭新人賞など受賞。京都市立芸術大学専任講師。

チケット発売中

ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.29
田村 響 ピアノ・リサイタル

9.11(日)開演15:00 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

[曲目]ベートーヴェン:ソナタ第8番《悲愴》ハ短調 作品13
ベートーヴェン:ピアノソナタ第21番 ハ長調 作品53「ヴァルトシュタイン」
ショパン:スケルツォ全4曲チケット(税込) 一般 正面席3,500円 バルコニー席2,500円
U-25*(バルコニー席対象)1,000円 メンバーズ 正面席3,200円

*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。

イザベル・ファウスト (ヴァイオリン) & クリスティアン・ベザイデンホウト (チェンバロ)

名手の対話が紡ぐオール・バッハ・プログラム

2013年、バッハの《無伴奏ヴァイオリンのためのソナタとパルティータ》全曲で圧倒的な名演を聴かせたイザベル・ファウストが、3年ぶりに彩の国に帰ってくる！鍵盤楽器の名手クリスティアン・ベザイデンホウトとの共演による、バッハの《ヴァイオリンとチェンバロのためのソナタ》を中心としたオール・バッハ・プログラム。創造的な対話から生まれる、はつらつとしたバッハを心から楽しみたい。

文◎後藤菜穂子 (音楽ライター)

バロック仕様の楽器を奏でるファウスト 2013年の名演以上の感動を

ドイツの名手、イザベル・ファウストのバッハといえば、《無伴奏ヴァイオリンのためのソナタ&パルティータ》の演奏を思い浮かべる人が多いだろう。実際、全曲レコーディングも行っているし(ハルモニア・ムンディ、2009/2011年録音)、彩の国さいたま芸術劇場での2013年の全曲演奏会をご記憶の方もいらっしゃると思う。そのピュアで明晰な解釈、隙のないテクニックと優れた様式感による演奏は、21世紀のスタンダードとも言われ、高い評価を得てきた。

そのファウストが10月に彩の国さいたま芸術劇場に再び登場するが、今回はバッハのもう一つのヴァイオリンのためのソナタ集、すなわち《ヴァイオリンとチェンバロのためのソナタ》より3曲(第1、3、6番)をメインに据えた新たなオール・バッハ・プログラムに挑む。この曲集は、孤高の無伴奏とは異なり、ヴァイオリンとチェンバロが織りなす親密な室内楽曲といえるが、ファウストとコンビを組むのはチェンバロ/フォルテピアノの俊英、クリスティアン・ベザイデンホウトだ。

ファウストがベザイデンホウトをパートナーに迎えてバッハのヴァイオリンとチェンバロのためのソナタ集に取り組み始めたのは2013年ごろのこと。毎シーズン、数公演ずつ演奏を重ねる中で、お互いに解釈を深めてきた。無伴奏のレコーディングではモダン仕様のストラディヴァリウスを用いた彼女だが、当時より歴史的な奏法にも関心を持っており、最近ではバロック仕様の楽器(ヤコブ・シュタイナー、17世紀中頃製)と弓を手に入れ、この楽器にガット弦を張り、歴史的奏法によるバッハを追求している。バロックの楽器を用いてもファウストの演奏の精度の高さと切れの良さは揺るが

ないが、より自在なフレーズや色彩感、そして表現の起伏の豊かさを感じる。無伴奏では内に向かうエネルギーが、ヴァイオリンとチェンバロのソナタでは外に放たれ、ベザイデンホウトとの澗刺とした対話が生み出される。

さらに、プログラムにはバッハの《無伴奏ヴァイオリンのためのソナタ第2番》も含まれており、この楽器でのファウストの独奏も堪能できるという、まさに彼女の現在進行形のバッハに立ち会える貴重な機会だ。

多才な鍵盤奏者ベザイデンホウト登場!

一方で、彩の国初登場となるベザイデンホウトは南アフリカに生まれ、オーストラリアとアメリカで学び、現在は英国を拠点とする。日本では主としてフォルテピアノ奏者として知られているが、チェンバロも弾き、古典派のレパートリーではモダン・ピアノも弾くという多才な鍵盤奏者だ。ここ数年は、フォルテピアノでモーツァルトのピアノ独奏曲全曲を録音するという一大プロジェクトに取り組み、今年初旬に完結した(全9巻、ハルモニア・ムンディ)。彼のモーツァルトは軽やかで気品があり、しかも陰影に富んだ表現が魅力的で、ディスクが出るごとに絶賛されてきた。

ソロ・リサイタルや協奏曲のソリストとして活躍するかたわら、歌手や器楽奏者との共演にも積極的で、ヴィクトリア・ムローヴァとのベートーヴェンのヴァイオリン・ソナタ集、テノールのマーク・バドモアとのシューマンの《詩人の恋》など、室内楽の分野でも高い信頼を得ている。

ロンドンで「5つ星」のデュオを彩の国で聴く

ファウストとベザイデンホウトに共通する特色は、二人とも相当な技巧派なのだが(ファウストはバガニー二国際ヴァイオリン・コ



イザベル・ファウスト ヴァイオリン
Isabelle Faust

1993年バガニー二国際ヴァイオリン・コンクール優勝。ベルリン・フィル、バイエルン放送、パリ管等のオーケストラと、アバド、ハイティンク、メニューイン、ヤンソンス、ハーディング、ピエロフラーヴェク等の指揮者と共演。CDは、『バッハ：無伴奏ソナタ&パルティータ』、『ベートーヴェン&ベルク：ヴァイオリン協奏曲』(アバド指揮モーツァルト管)等多数リリース、数多くの賞を受賞している。



クリスティアン・ベザイデンホウト チェンバロ
Kristian Bezuidenhout

2001年ブルージュ国際古楽コンクール第1位・聴衆賞。以来、ロイヤル・コンセルトヘボウ管、ベルリン古楽アカデミー、18世紀オーケストラ等のオーケストラと、ガーディナー、ブリュッヘン、ホグウッド、ヘレヴェッヘ等の指揮者と共演。09年からハルモニア・ムンディと契約を結び、特にモーツァルトの鍵盤楽器のための作品集はいずれも高い評価を得ている。

チケット発売中

イザベル・ファウスト & クリスティアン・ベザイデンホウト オール・バッハ・プログラム

10.10(月・祝)開演15:00 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

[曲目] J. S. バッハ：
ヴァイオリンとチェンバロのためのソナタ第3番 ホ長調 BWV 1016
無伴奏ヴァイオリン・ソナタ第2番 イ短調 BWV 1003
ヴァイオリンとチェンバロのためのソナタ第1番 口短調 BWV 1014
トッカータ 二短調 BWV 913
ヴァイオリンとチェンバロのためのソナタ第6番 長調 BWV 1019

チケット(税込) 一般 正面席7,000円 バルコニー席6,000円
U-25*(バルコニー席対象)3,000円 メンバーズ 正面席6,300円

*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。



イザベル・ファウスト
バッハ無伴奏ヴァイオリン作品全曲演奏会
彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール (2013年)
Photo◎加藤英弘



レ・ヴァン・フランセ Les Vents Français

フランスのエスプリを受け継ぐ、世界最高の木管アンサンブル。知られざる名曲の紹介も多く、合奏でも個人の輝きを見せるというフランスの伝統を重んじている。レパートリーによってメンバーや編成も変わる。メンバーが参加し制作されたCDは第37回音楽之友社「レコード・アカデミー大賞」、第50回レコード・アカデミー賞大賞銀賞をはじめとする数々の賞を受賞。2002年3月、アンサンブルとして初来日。NHKでも繰り返し取り上げられ、予想をはるかに超えるあまりの完璧な演奏は聴衆に衝撃を与えている。今回もベストメンバーで来日。

レ・ヴァン・フランセ Les Vents Français

世界最強の木管アンサンブルが、彩の国に再び！

スーパースター奏者たちによる夢のアンサンブル「レ・ヴァン・フランセ」がやってくる。古典から現代まで並んだ、レ・ヴァン・フランセならではのプログラムで、究極のハーモニー、驚異のテクニック、情熱あふれる音楽に痺れる、圧巻の2時間。憧れの奏者の“本気”の音楽を目の前で聴く、興奮の演奏会！

文●飯尾洋一（音楽ライター）

スタープレイヤーたちの魅力を 間近で感じるには彩の国が一番！

管楽器のドリームチームと呼んで差し支えないだろう。世界のトップ・プレイヤーたちで結成されたレ・ヴァン・フランセが、2年ぶりに彩の国さいたま芸術劇場にやってくる。フルートのエマニュエル・バユ、クラリネットのポール・メイエ、オーボエのフランソワ・ルルー、ホルンのラドヴァン・ヴラトコヴィチ、バスーン（フランス式のバスーン）のジルベール・オダン、そしてピアノのエリック・ル・サーージュ。よくもこれだけの名手たちがそろったものだと感心するほかない。

以前、彩の国さいたま芸術劇場音楽ホールでレ・ヴァン・フランセの公演を聴いた際には、場内になんとも形容しがたい高揚感と熱気が充満していた。あこがれのスタープレイヤーの演奏を生で聴きたいという吹奏楽経験者や現役プレイヤーも大勢つめかけていたことだろう。強烈な印象を残したのは拍手の密度。固唾を呑んで音楽に耳を傾けていた聴衆から、ダダダダー！と立ち上がりの鋭い拍手が沸き起こる。会場が熱い好奇心で満たされている様子がひしひしと伝わってきた。

なぜレ・ヴァン・フランセがそこまで人々の心をとらえるのか。まずはもちろん、驚異的なテクニックが挙げられる。正確無比な音のコントロール、磨き抜かれた音色の美しさやニュアンスの豊かさ、繊細な響きのバランス。現代における管楽アンサンブルの最高到達点といっても過言ではない。

それに加えてもうひとつ挙げたいのはパッション。全員が演奏する純粋な喜びにあふれ、作品に命を吹き込む。とりわけフ

ルートのバユにいつも感じることなのだが、器楽奏者という存在を超越して、あたかも音楽の化身となって演奏に没頭しているかのように見える。あの音楽に献身する姿勢にはいつも心を動かされる。

フランス音楽が中心の 真剣勝負のプログラム レ・ヴァン・フランセのための作品も

今回のプログラムも古典から近現代の作品まで、フランス音楽を中心に多彩な曲目が並んだ。一言でいえば志の高いプログラムといえよだろうか。だれもが知る有名曲を安易に木管五重奏用に編曲したりはせず、オリジナルの形で演奏可能な曲が選ばれており、ときには現代的な斬新な響きを持った作品をとりあげることもいとわれない。管楽器経験者のみならず、一般の音楽ファンにとって、十分に聴きごたえのある選曲になっている。各曲を簡単にご紹介しておこう。

オンスローの《木管五重奏曲へ長調》は、古典派の作風で書かれ、明るくのびやかな曲想が特徴。貴族出身のイギリス系フランス人作曲家オンスローは19世紀前半に主に室内楽の分野で活躍した。素朴な美しさを持った作品を、極めつけの名手たちが演奏するとどうなるのかが聴きどころ。

ベートーヴェンの《ピアノ、フルートとバスーンのための三重奏曲ト長調》は、珍しい楽器の組み合わせのために書かれている。まだ10代半ばのベートーヴェンによって書かれた初期作品で、親交のあった貴族の一家がたまたまこれらの楽器を嗜んでいたため、このような編成になっている。フルートとバスーンという音域の離れた両木管楽器の間をピアノが取り持ち、宮



彩の国さいたま芸術劇場開館20周年記念 レ・ヴァン・フランセ
彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール(2014年) Photo©加藤英弘

廷的な優雅さを醸し出す。ベートーヴェンにもこんな素直な少年時代があったなんて！

一方、現代フランスの作曲家エスケシュの六重奏曲《メカニック・ソング》は、刺激的な作品だ。特殊奏法も用いながら新たな響きの世界を追求する。もともとレ・ヴァン・フランセのために書かれた作品だけに、奏者への要求は猛烈に高い。

ジョリヴェは20世紀フランスの作曲家。革新的な作風を特徴としており、《セレナード——オーボエ主題を伴う木管五重奏のための》ではジョリヴェならではの魔術的、呪術的な楽想を味わえる。こうした強烈な響きを持った作品こそ、レ・ヴァン・フランセの洗練されたサウンドで聴きたいもの。

そして、メイン・プログラムといえるのが、プーランクの《六重奏曲》。これはもうレ・ヴァン・フランセの十八番と言っているだろう。木管五重奏とピアノのために書かれた20世紀フランスを代表する傑作である。乾いたユーモアや機知に、情感の豊かさが一体となった二面性がプーランク最大の魅力。アンサンブルの機能性の高さも存分に発揮されるはずである。

これだけのプログラムを604席の親密な空間で聴けるのだから、ぜいたくというほかない。忘れたいひとときとなることだろう。

チケット発売中

レ・ヴァン・フランセ

10.22(土)開演15:00 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

[出演] エマニュエル・バユ(フルート)、フランソワ・ルルー(オーボエ)、ポール・メイエ(クラリネット)、ラドヴァン・ヴラトコヴィチ(ホルン)、ジルベール・オダン(バスーン)、エリック・ル・サーージュ(ピアノ)

[曲目] オンスロー: 木管五重奏曲 へ長調 作品81
ベートーヴェン: ピアノ、フルートとバスーンのための三重奏曲 ト長調 WoO 37
エスケシュ: 六重奏曲《メカニック・ソング》(レ・ヴァン・フランセに献呈)
ジョリヴェ: セレナード——オーボエ主題を伴う木管五重奏のための
プーランク: 六重奏曲

チケット(税込) 一般 正面席6,000円 メンバーズ 正面席5,500円

※バルコニー席、U-25チケットは予定枚数終了。

レ・ヴァン・フランセ関連企画

公開リハーサル開催！(中高生優先。1時間程度・限定50名)

レ・ヴァン・フランセのメンバーが当劇場で行うホール・リハーサルに、公演チケットをご購入の方をご招待いたします。世界のトップ・プレイヤーたちがアンサンブルを創り上げる瞬間に立ち会ってみませんか。たくさんのご応募をお待ちしています。

[日時] 10月22日(土) 13:00~14:00(12:45集合)

[場所] 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

[対象] 本公演チケットご購入の方 限定50名

[申込方法] メールまたは往復ハガキの往信面に下記事項をご記入の上、お送りください。

①氏名 ②年齢/中高生は学校名・学年 ③郵便番号・住所 ④電話番号 ⑤メールアドレス ⑥公演チケットの座席番号

[宛先] メール music@saf.or.jp

往復ハガキ 〒338-8506 埼玉県さいたま市中央区上峰3-15-1

彩の国さいたま芸術劇場 レ・ヴァン・フランセ 公開リハーサル係

[締切] 9月9日(金) 必着

※応募多数の場合は、中学生・高校生を優先とした上で抽選を行い、抽選結果は9月末までにお知らせいたします。



1万人の ゴールド・シアター2016 いよいよ始動!

5月に急逝した蛭川幸雄の遺志を引き継ぎ、埼玉から発信する、世界最大級の群集劇「1万人のゴールド・シアター2016」。6月と7月、数日間に分けて、公募で集まった60歳以上の参加者に向けての説明会が行われ、前代未聞の一大プロジェクトがいよいよ動き始めた。説明会は彩の国さいたま芸術劇場で開催され、期待に胸をふくらませた参加者たちが、連日、会場である音楽ホールを埋め尽くした。

初回は埼玉県芸術文化振興財団の竹内文則理事長が、生前の蛭川と一年半前から相談をして進めてきたという企画の意図やねらいを説明。「舞台をつくる喜びを全員で分かち合いたい」と熱い思いを伝えた。その後、演出を引き継ぐことに決まった脚本家・演出家で俳優のノゾエ征爾氏のプロフィールを紹介。稽古スケジュールなどの連絡を行った。

参加者は60代から90代の男女。埼玉・東京・神奈川・千葉といった関東圏はもちろん、北は北海道、南は宮崎、アメリカ在住の日本人の方からも応募があったとのこと!

質疑応答でも多くの参加者が積極的に手を挙げ、熱気充分。エネルギーあふれる創作になりそうだ。

発売日 9月下旬予定

1万人のゴールド・シアター2016

公演日: 12月7日(水)

会場: さいたまスーパーアリーナ

企画・原案: 蛭川幸雄 脚本・演出: ノゾエ征爾

※詳細が決まり次第発表いたします。

Review

レビュー

MUSIC

「次代へ伝えたい名曲」第7回
館野 泉 ピアノ・リサイタル
5.14(土) 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

左手のピアニスト館野泉の活動に共感するお客様が大勢来場した演奏会。片手だけで弾いているとは思えない、緻密かつダイナミックな響きでホールは満たされた。心の中で作品と対話するような《シャコンヌ》で始まり、「平清盛」では吉松隆らしい美しい和音が連なり、末吉保雄《土の歌・風の声》はビレネー山脈の険しい稜線が見えるような音楽が館野のタッチと見事に調和した。coba《記憶樹》では全10曲から多様な表情を見せてくれた。作品と真摯に向かい合い、紡ぎ出される響きは、音楽に片手も両手も関係ないことを教えてくれる。音楽と人間の無限の可能性を伝えてくれた、幸せなりサイタルだった。



Photo©加藤英弘

PLAY

彩の国シェイクスピア・シリーズ第32弾
『尺には尺を』
5.25(水)~6.11(土) 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

蛭川幸雄の訃報を受け、追悼公演となった彩の国シェイクスピア・シリーズ最新作。二面性のある公爵代理アンジェロ(藤木直人)、清純な修道女見習いイザベラ(多部未華子)、神の視点で世界を見つめる公爵(辻萬長)をはじめ、すべての登場人物が欠点も美点もある「人間」として立ち上がり、奥行きある喜劇に仕上がった。幕切れ、青空に羽ばたく鳩は、誰もが持つ自由の権利を謳うような……。カーテンコールでは蛭川の写真が掲げられ、場内はスタンディングオベーション。これまでに観せてもらった、素晴らしい数々の舞台への感謝の拍手が、いつまでも鳴り止まなかった。



Photo©渡部孝弘

DANCE

コンドルズ埼玉公演2016新作
『LOVE ME TenDER』
6.18(土)・19(日) 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

結成20周年、彩の国さいたま芸術劇場での記念すべき10作目を送り出したコンドルズ。それぞれの身体を生かしたダンス、いつも以上にパワフルでシュールな人形劇や映像など「これぞ、埼玉のコンドルズ!」の極め付け。ペットボトルをつないだ長いロープを鎌倉道彦がぐるぐる回し、メンバーたちがヒラリとかわしながらジャンプし、舞う大技も披露! 観客の拍手喝采をさらった。フィナーレ、亡くなった偉大な先人アーティストの名をつぶやく振りから、まぶしいほど真っ白い光の中で踊る近藤良平ソロは、死者を悼むダンスのようにも見え、ハッとするような美しさだった。



Photo©HARU

MUSIC

発売中

ピアノ・エトワール・シリーズ アンコール! Vol.6 アレクサンダー・ガヴリリュク ピアノ・リサイタル

7.16(土)15:00 音楽ホール

[曲目] ショパン：ポロネーズ第6番 変イ長調 作品53「英雄」
ラフマニノフ：練習曲集〈音の絵〉作品39よりほか

チケット(税込)
一般 正面席5,000円／メンバーズ 正面席4,500円
※バルコニー席・U-25は予定枚数終了しました。

発売中

ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.29 田村 響 ピアノ・リサイタル

詳細はP.16-17

発売中

イザベル・ファウスト &クリスティアン・ベザイデンホウト オール・バッハ・プログラム

詳細はP.18-19

発売中

レ・ヴァン・フランセ

詳細はP.20-21

発売中

加藤訓子 PROJECT IX — PLEIADES (ヤニス・クセナキス)

10.29(土)・30(日)17:00 小ホール

※当初発表した公演時間が変更となりました。

[曲目] クセナキス：プレイアデス
クセナキス：ルボン

チケット(税込)
全席自由 一般 5,000円／メンバーズ 4,500円

[主催] kuniko kato arts project
[共催] 公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団

発売中

NHK交響楽団 12人のチェリストたち

11.5(土)14:00 音楽ホール

[出演] 藤森亮一、向山佳絵子、藤村俊介、
桑田 歩、銅銀久弥、山内俊輔、西山健一、
三戸正秀、村井 将、宮坂弘志、渡邊方子、市 寛也

[曲目] クレンゲル：賛歌
三枝成彰編曲：日本の歌
三枝成彰編曲：ビートルズ・メドレーほか

チケット(税込)
一般 正面席3,500円 バルコニー席2,500円
U-25*(バルコニー席対象)1,000円／メンバーズ3,200円

発売中

バッハ・コレギウム・ジャパン J. S. バッハ《ミサ曲 口短調》

11.12(土)15:00 音楽ホール

[出演] 鈴木雅明(指揮)
朴 瑛実、ジョアン・ラン(ソプラノ)

ダミアン・ギヨン(アルト)
櫻田 亮(テノール)
ドミニク・ヴェルナー(バス)

チケット(税込)
一般 正面席8,000円 バルコニー席7,000円
U-25*(バルコニー席対象)3,000円／メンバーズ 7,200円

発売中

ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.30 ニコライ・ホジャイノフ ピアノ・リサイタル

11.19(土)15:00 音楽ホール

[曲目] ショパン：アンダンテ・スピナートと華麗な大ポロネーズ
シューマン：幻想曲 ハ長調 作品17ほか

チケット(税込)
一般 正面席3,500円 バルコニー席2,500円
U-25*(バルコニー席対象)1,000円
メンバーズ 正面席3,200円

発売中

彩の国さいたま芸術劇場シリーズ企画 「次代へ伝えたい名曲」第8回 藤原真理 チェロ・リサイタル

12.10(土)14:00 音楽ホール

[曲目] ベートーヴェン：チェロ・ソナタ 第1番 へ長調 作品5-1
林 光：チェロ・ソナタ《十月の歌》ほか

チケット(税込)
一般 正面席4,000円 バルコニー席3,000円
U-25*(バルコニー席対象)1,500円／メンバーズ3,600円

発売日 一般 **9.10(土)** メンバーズ **9.3(土)**

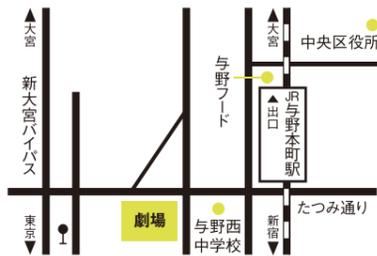
ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.31 キット・アームストロング ピアノ・リサイタル

2017年1.21(土)15:00 音楽ホール

[曲目] アームストロング：細密画
J. S. バッハ：パルティータ第6番 ホ短調ほか

チケット(税込)
一般 正面席3,500円 バルコニー席2,500円
U-25*(バルコニー席対象)1,000円
メンバーズ 正面席3,200円

彩の国さいたま芸術劇場



〒338-8506 埼玉県さいたま市中央区上峰 3-15-1
TEL:048-858-5500(代) ファックス:048-858-5515

- 電車でのアクセス
JR埼京線と野本町駅(西口)下車 徒歩7分
- バスでのアクセス
JR京浜東北線北浦和駅から西武バス大久保行き
JR彩の国さいたま芸術劇場入口]下車 徒歩2分

※駐車台数に限りがありますので、ご来場の際はなるべく公共交通機関をご利用ください。
※埼玉会館は施設・設備の大規模改修工事のため、2017年3月31日まで(予定)休館となります。

INFORMATION

【参加者募集】 スペシャルイベント 蜷川幸雄と「彩の国シェイクスピア・シリーズ」

10月15日に22回目の開館記念日を迎える彩の国さいたま芸術劇場。この日は奇しくも、5月12日に他界した蜷川幸雄芸術監督の81回目の誕生日。18年に渡って率いてきた「彩の国シェイクスピア・シリーズ」を軸に、蜷川芸術監督の仕事映像とともに振り返ります。解説は同シリーズで翻訳を手掛ける松岡和子さん。スペシャルゲストも迎えて、伝説の稽古場や知られざるエピソードについて語ります。どうぞご期待ください。

[日時] 10月15日(土) 14:00開演 (13:30開場)
[会場] 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
[出演] 松岡和子(翻訳家)ほか
[申込方法] 官製ハガキに下記事項をご記入の上、お送りください。チケットの発送を持って抽選結果の発表にかえさせていただきます。

※入場無料。指定席。メンバーズの方への優先枠あり。
◎記入事項 ①郵便番号・住所 ②氏名(フリガナ) ③会員番号(財団メンバーの方) ④希望人数(1枚のハガキで2名様まで)

[応募締切] 9月23日(金)必着
[宛先] 〒338-8506 埼玉県さいたま市中央区上峰3-15-1 (公財)埼玉県芸術文化振興財団「10/15イベント入場募集係」
[お問合わせ] メンバーズ事務局 048-858-5507



Photo©細野晋司

謹告

『ハムレット』『近松心中物語～それは恋～』 公演中止のお知らせ

彩の国さいたま芸術劇場 蜷川幸雄芸術監督のご逝去にともない、10月に上演を予定しておりました蜷川幸雄演出「ハムレット」公演、ならびに平成29年1月に上演を予定しておりました、秋元松代作・蜷川幸雄演出「近松心中物語～それは恋～」公演の中止を決定いたしました。公演を楽しみにされていた皆様は心よりお詫び申し上げます。

サポーター会員

(公財)埼玉県芸術文化振興財団は、演劇、ダンス、音楽を中心に、この劇場でしか見られない最高の作品を提供できるよう、作品づくりに努めています。こうした財団の活動にご理解、ご支援をいただいているのがサポーター会員の皆様方です。(2016.6.25現在／一部未掲載)

- (株)与野フードセンター／(株)亀屋／(株)松本商会／(有)香山壽夫建築研究所／埼玉新聞社／埼玉りそな銀行／(株)パシフィックアートセンター
- (株)アサヒコミュニケーションズ／FM NACK5／東京ガス(株)／カヤバシステム マシナリー(株)／(株)タムロン／(株)十万石ふくさや／森平舞台機構(株)
- 東芝エルティエーエンジニアリング(株)／埼玉トヨタ自動車(株)／(有)齋賀設計工務／武蔵野銀行／浦和ロイヤルパインズホテル／アルピーノ村／国際照明(株)
- 埼玉スバル／桶本興業(株)／(株)佐伯紙工所／(株)太陽商工／(株)しまむら／不動開発(株)／ビストロ やま／埼玉縣信用金庫／(株)栗原運輸／彩の国SPグループ
- (有)プラネッツ／関東自動車(株)／(株)デサン／セントラル自動車技研(株)／丸美屋食品工業(株)／ポラスグループ／ひがし歯科／埼玉トヨペット(株)
- 公認会計士 宮原敏夫事務所／(株)価値総合研究所／(株)埼玉交通／(医)顕正会 蓮田病院／サイデン化学(株)／アイル・コーポレーション(株)／五光印刷(株)
- 旭ビル管理(株)／ヤマハサウンドシステム(株)／(株)エヌテックサービス／(株)クリーン工房／(株)つばめタクシー／(株)サンワックス／(株)総合舞台
- (一財)さいたま住宅検査センター／国大グループホールディングス／(株)NEWSエンターテインメント／オーガスアリーナ(株)／イープラス／六三四堂印刷(株)
- (医)榎会 林整形外科／埼玉県整形外科医会／(医)山粋会 山崎整形外科／サンケイリビング新聞社／(株)三和広告社／(株)セノン／ショッパー／(株)松尾楽器商会
- JA埼玉県中央会／日本大学芸術学部／(株)川口自動車交通／(株)ホンダカーズ埼玉／ファミリーマートあすまや／(有)杉田電機／丸茂電機(株)
- 太平ビルサービス(株)さいたま支店／(株)片岡食品／(株)協栄／(株)ヨコハマタイヤジャパン／NTT東日本 埼玉事業部／チャコット(株)／(株)平和自動車
- 光陽オリエントジャパン(株)／埼玉建設(株)／さくら Music Office／クワバラ・パンぷキン／駒橋内科医院／東和アークス(株)／テレビ埼玉／日本ピストンリング(株)
- 金井大道具(株)／国立大学法人 埼玉大学／(株)七越製菓／ビーンズ与野本町／(一社)埼玉県経営者協会／(株)コマム／(株)原一探偵事務所／(株)ファーストハウジング
- 飯能信用金庫／川口信用金庫／青木信用金庫／美術商(株)つくば／(株)和幸楽器／淑徳与野中学・高等学校／新日本ハウス(株)／埼玉栄中学・高等学校／大栄不動産(株)
- (株)アップオンリー AD／埼玉東和薬品(株)／相川宗一／(株)ハイディ日高／浦和実業学園中学・高等学校／松林幸子／三井隆司／大和証券(株)

お問合わせ (公財)埼玉県芸術文化振興財団 サポーター会員担当 TEL.048-858-5507

チケット購入方法について

インターネット



埼玉県芸術文化振興財団
オンラインチケット

SAFオンラインチケット
で、発売初日10:00から
公演前日23:59まで
受付いたします。



【PC・携帯共通】
http://www.ticket.ne.jp/saf/

メンバーズ 登録のご住所へ無料配送

一般 ①クレジットカード決済 ②コンビニ発券
または③コンビニ支払い

※チケット代他に、店頭発券手数料
(チケット1枚につき120円)が必要です。

電話予約

チケットセンター 0570-064-939

10:00～19:00(彩の国さいたま芸術劇場休館日を除く)
※一部の携帯電話、PHS、IP電話からは受付できません。

メンバーズ 登録のご住所へ無料配送

一般 ①クレジットカード決済 ②コンビニ発券
または③コンビニ支払い

※チケット代他に、店頭発券手数料
(チケット1枚につき120円)が必要です。

窓口販売

彩の国さいたま芸術劇場窓口(10:00～19:00)で直接購入
いただけます。電話予約したチケットの引取もできます。
※休館日をお確かめの上、ご来場ください。

メンバーズ ①口座引落

一般 ①現金または
②クレジットカード決済

その場で
チケットを
お渡します。
※手数料は
かかりません。



画●磯良一

もう読まなくていいんじゃない？

文●岩松了

1973年に大学生だった私は新宿のアートシアター新宿文化という映画館で蜷川幸雄演出の『盲導犬』という芝居を観た。映画の上映後にそのステージで上演された。初めての蜷川幸雄体験だった。そのおよそ30年後の2004年に私は蜷川さんに演出してもらおうべく『シブヤから遠く離れて』という本を書いた。そんな日が訪れようとは思ひもしなかったあの『盲導犬』のころ、あところに蜷川さんと出会っていたら私は全く違う演劇人生を歩んでいたと思う。ただただ仰ぎ見ていたから、私は私でいられたのだと思う。だって、もっと近くにいたなら影響を受けないはずはないということがわかるから。

影響を受けるということと、その人から学ぶ、ということは違う。

私は演出家と言われるたびに「いやオレは演出家じゃない」と思い続けている。でも演出家でありたいと思う。なぜなら演出家が役者をつくるのが演劇だと思っただけ。決して劇作家じゃない。そんな時いつも念頭にあるのは演出家の蜷川さんだ。なぜ人が芝居をするのか、演劇は人間のどういう行為か、蜷川さんの舞台からはそのことへの直感を感じないわけにはいかない。大きくは肯定の演劇であったと思う。否定することは“お勉強してる感”を助長する。その“お勉強してる感”をまずは否定したのだ。否定の否定で肯定にたどり着いた、そんな印象だ。

ある雑誌で対談したときのこと、もう15年くらい前になるだろうか、私は蜷川さんに告白する思いで「ブレヒトって読んだことないんですよ」と言った。蜷川さんはちょっと笑ってからこうおっしゃった、「もう、読まなくていいんじゃない？」

その言葉がなぜか忘れられない。同時に何か重く感じる。たぶん私の中では「その分あなたは他で埋め合わせをするべき責任があるよ」という意味に変換されてしまっているのだ。蜷川さんの笑顔には、そんな厚みがあった。今は、どうしてもっと蜷川さんから直接学ぼうとしなかったのか、その思いが強い。何が邪魔をしたのか、と思う。

いわまつ・りょう

劇作家、演出家、俳優、映画監督と幅広く活躍。

さいたまゴールド・シアター『船上のピクニック』『ルート99』の劇作を手掛けた。